

# TKS report vol.23

TECHNOLOGY AND KNOWLEDGE ENRICH SOCIETY

## 第112期年次報告書

2017年3月1日～2018年2月28日

株式会社 **東京衛機**

**TOKYO KOKI CO. LTD.**

【東証2部上場（証券コード7719）】

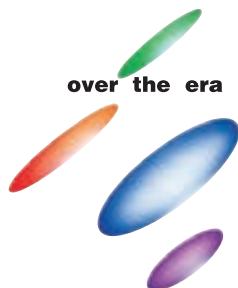


## ■ トップメッセージ/企業理念



## contents

トップメッセージ/企業理念	1
決算ハイライト	2
事業内容	3
事業の概況	4
連結財務諸表 (概要)	5
トピックス	7
特集「ロックワン」のご紹介	9
株式情報/会社概要/役員等	10



代表取締役社長  
竹中 洋

平素は格別のご支援、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2018年5月31日付で当社の代表取締役社長に就任いたしました竹中洋でございます。

当社は、1923年に衡器と試験機の専門メーカー「合資会社東京衡機製造所」として創業し、1936年に株式会社に改組、以来、試験機業界の先進企業として我が国の産業の発展とともに歩んでまいりました。今日では、試験機事業を営む(株)東京衡機試験機、エンジニアリング事業を営む(株)東京衡機エンジニアリングおよびプラスチック成型事業を営む中国子会社を傘下に置く実質的な持株会社体制となっております。

当社グループの第112期（2017年3月1日～2018年2月28日）の状況は、試験機事業では受注高は前期を上回り、エンジニアリング事業では売上高・利益ともに前年並みとなるなど比較的堅調に推移しましたが、

海外事業では、中国子会社において不正問題が発覚し、事業全体に大きな影響を与えることとなり、再発防止と事業の立直しに取り組みましたが、結果としまして、連結合計では売上高は前期を大きく下回り、多額の営業損失を計上することとなりました。

当社といたしましては、不正問題の再発防止策を徹底し、グループ全体のコンプライアンス意識を高め、グループ全社員が一致団結一丸となり、クリーンな会社として逸早く皆様の信頼を得られますように、今後も創業当初の「モノづくり」の原点を大切にまいります。さらに、主力事業である試験機事業とエンジニアリング事業を中心に、5年後の創業100周年に向けて、海外貿易などの新規事業分野への展開も検討しつつ、グループの事業拡大を図り、さらなる発展を目指す所存であります。

皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

**TKS**  
TOKYO KOKI

TECHNOLOGY AND KNOWLEDGE ENRICH SOCIETY  
「技術と知識で豊かな社会の実現に貢献する」

技術への挑戦と  
顧客からの信頼

常にお客様の立場に立ち、  
“価値ある商品”を提供します。

人間性の尊重

一人ひとりの“能力・意欲・創意を  
尊重する”とともに、やさしさと  
温かみのある人間集団を目指します。

地域社会への貢献

日々の誠実な活動を通じ、  
地域からも“信頼される  
企業市民”であり続けます。

## 決算ハイライト

### 第112期 (2017年3月1日～2018年2月28日)

	連結業績	個別業績 (当社単体)
売上高	4,527百万円 (前年度比 △9.3%)	325百万円 (前年度比 △58.2%)
営業利益	△306百万円 (前年度は 13百万円)	△5百万円 (前年度は 12百万円)
経常利益	△343百万円 (前年度は 5百万円)	△14百万円 (前年度は 1百万円)
親会社株主に帰属する 当期純利益	△404百万円 (前年度は △49百万円)	△990百万円 (前年度は 34百万円)
1株当たり当期純利益	△5円67銭	△13円89銭

※△は損失を示しております。

当連結会計年度は、試験機事業では、民間企業の設備投資の増加傾向を受けて、当社グループの中核子会社である(株)東京衡機試験機およびそのサービス子会社である(株)東京衡機試験機サービスにおいて、様々な原価低減施策を実行して価格競争力を強化するとともに、製品別・顧客別の営業体制の整備を行い、受注・売上の確保と拡大に努めました。その結果、受注高は前連結会計年度を上回るなど堅調に推移しましたが、売上高は大型試験装置の売上計上が翌期にずれしたことなどにより計画を下回りました。

エンジニアリング事業では、ゆるみ止め製品の電力業界、道路業界、鉄道業界、建設業界等のインフラマーケットへの浸透・市場シェア拡大を図りました。また、一般消費者向けの生活関連商品の拡販にも注力し、アイテムごとに差はあるものの、総じて販売拡大の見通しを保持する状況になりました。

海外事業では、オフィス家具部品や家電部品、自動車関連部品等のプラスチック成型品の製造販売のさらなる拡充を目指しましたが、昨年中国子会社の無錫三和塑料製品有限公司において元役員による不正問題が発覚したため、同社の体制・風土を刷新すべく、組織・人事の抜本的な見直し、社内ルール・運用管理体制の全面的見直し、工場機能の見直しおよび生産・品質管理体制の改善・強化に取り組むとともに、基本に立ち返って従業員へのコンプライアンスの周知徹底および内部統制システムの改善・整備を進めました。また、同事業については、子会社の瀋陽特可思木芸製品有限公司の出資持分譲渡に係る関係会社株式売却益を特別利益に計上するとともに、無錫三和塑料製品有限公司における不正問題に係る調査費用等を特別損失に計上しました。さらに、無錫三和塑料製品有限公司が今回の不正問題を主因に大幅営業赤字に陥ることとなったため、同社の固定資産に係る減損損失、のれんの減損損失等を特別損失として計上することとなり、これを受けて、当社単体においても同社に係る関係会社株式評価損を特別損失として計上いたしました。

以上の結果、当連結会計年度の連結業績および個別業績は上記のとおりとなりました。

### 業績のポイント

- ①試験機事業は、営業体制の整備などにより受注高は堅調であったものの減収減益となる
- ②エンジニアリング事業は、ゆるみ止めネットと量販店向け商品の拡販に注力したものの、売上は伸び悩む
- ③中国子会社の大幅な営業赤字の計上により、連結で固定資産の減損損失やのれんの減損損失を特別損失として計上し、当社単体では関係会社株式評価損を特別損失として計上

## ■ 業績の見通し (2018年5月1日の業績予想公表時点)

### 第113期 (2018年3月1日～2019年2月28日)

		売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
連結業績	第2四半期累計	2,600百万円	250百万円	200百万円	180百万円
	通期	5,000百万円	350百万円	290百万円	220百万円

※実質的な持株会社体制に移行しているため、個別業績予想の公表は行っておりません。

## 事業内容

1923年創業の伝統と高い技術力を誇る試験機事業をはじめとして、画期的なアイデアで社会に安心と安全を提供するエンジニアリング事業など、技術と知識で豊かな社会の実現に貢献すべく様々な事業を展開しています。

### 試験機事業

試験機・計測機器の開発・設計・生産からメンテナンス・校正・受託試験サービスまで高度な技術力によりワンストップソリューションを提供しており、産業界や各種研究機関から広くご愛顧をいただいております。



試験機事業

海外事業

### 海外事業

中国子会社の樹脂成型技術を活かして、オフィス家具部品や自動車関連部品、家電関連部品等のプラスチック成型品の製造販売を行っています。



**TKS**  
TOKYO KOKI

Technology and Knowledge ENRICH SOCIETY

エンジニアリング事業

### エンジニアリング事業

画期的なアイデアと独自の技術で開発したゆるみ止めナットとナットの脱落を防止するゆるみ止めスプリングの製造販売（締結具事業）とともに、一般消費者向け商品の卸販売等（民生事業）を行っています。



アジア地域における拠点

MONGOLIA

CHINA

NORTH KOREA

SOUTH KOREA

JAPAN

無錫三和塑料製品有限公司

東京衡機試験機豊橋工場

東京衡機試験機相模原工場

東京衡機試験機サービス

東京衡機エンジニアリング

TKS 東京衡機

## 事業拠点



相模原工場

本店

〒101-0025

東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地第7東ビル



豊橋工場

### 国内子会社

#### 株式会社東京衡機試験機

- 本店  
東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地 第7東ビル
- 相模原工場・東京支店  
神奈川県相模原市緑区三井315番地
- 豊橋工場・中部支店  
愛知県豊橋市北島町字北島202番地
- 大阪支店  
大阪市淀川区宮原四丁目1番45号 新大阪八千代ビル2階

#### 株式会社東京衡機試験機サービス

- 本社  
神奈川県相模原市緑区三井315番地

#### 株式会社東京衡機エンジニアリング

- 本社  
東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地 第7東ビル

#### 株式会社テークステレコム ※事業休止中

### 海外子会社

- 無錫三和塑料製品有限公司（中国江蘇省無錫市）
- 無錫特可思衡機貿易有限公司（中国江蘇省無錫市）
- ※無錫特可思電器製造有限公司から社名変更

## 事業の概況

当社グループは、2017年度から「再生のステージから、新たな企業創生へのチャレンジ！」をテーマに各事業において以下のビジョンを掲げ、新たな東京衡機グループの創生に取り組んでいます。

試験機事業
エンジニアリング事業
海外事業

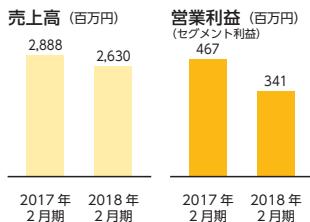
産業の基盤技術として、存在感のある試験機事業会社を目指す。

顧客満足と社会の発展に貢献する企業を目指す。

生産能力拡張により上海江蘇地域で業界No.1を目指す。

### TESTING MACHINE BUSINESS 試験機事業

売上高	2,630百万円
営業利益 (セグメント利益)	341百万円

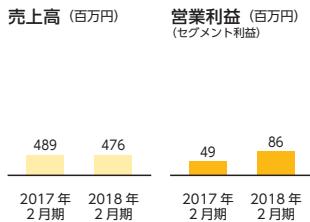


当期は、試験機の標準図面の整備等を進め原価低減の基盤を作るとともに、取引先の旺盛な設備投資の動きを受け、受注高・売上高の拡大に努めてまいりました。また、製品別・顧客別の営業体制の整備を行い、販売活動の活性化と受注獲得までのプロセス向上に取り組みました。その結果、売上高については大型案件の期ずれがあり前期を下回ったものの、受注高は前年実績を上回り概ね堅調に推移いたしました。



### Engineering BUSINESS エンジニアリング事業

売上高	476百万円
営業利益 (セグメント利益)	86百万円

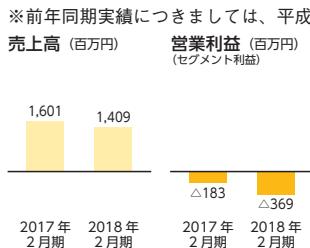


当期は、高速道路関係や電力関係等のインフラ設備や公共事業関連施設を対象にゆるみ止めナット・スプリングの販売体制を強化し、安定的な売上・受注確保に努めました。また、訪日客をターゲットとした量販店向け商品（ステンレスボトルおよび軽量スーツケース）の販売拡大と当該商品のモデル変更を進めました。その結果、ゆるみ止めナットやボルトなど主要商品の販売の伸び悩みが続いたため、売上高は微減となりましたが、営業利益は前期を若干上回りました。



### Overseas BUSINESS 海外事業

売上高	1,409百万円
営業利益 (セグメント利益)	△369百万円



※前年同期実績につきましては、平成29年8月15日付で過年度決算訂正を行っております。

当期は、オフィス家具部品や家電部品、自動車関連部品等のプラスチック成型品の製造販売の拡充を図りましたが、中国子会社の無錫三和塑料製品有限公司において元従業員の不正問題が発覚し、事業全体に大きな影響を与えました。再発防止と同社の立直しに向けて、グループを上げてマネジメント体制の抜本的見直し、5S活動の強化・定着、原価低減活動などに取り組みましたが、当期においてはその影響が払拭しきれずに、売上高は前期を大きく下回り、多額の営業損失を計上することとなりました。



※売上高には、外部顧客への売上高を記載しております。  
※△は損失を示しております。

連結財務諸表（概要）（単位：百万円、単位未満切捨て）

連結貸借対照表

科目	前連結会計年度末 2017年2月28日現在	当連結会計年度末 2018年2月28日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	3,163	2,949
現金及び預金 <b>1</b>	728	450
受取手形及び売掛金	1,495	1,330
たな卸資産 <b>2</b>	869	1,018
繰延税金資産	8	5
その他	150	261
貸倒引当金	△ 88	△ 117
固定資産	1,422	1,103
有形固定資産 <b>3</b>	1,170	979
無形固定資産	107	14
繰延税金資産	60	49
投資その他	292	265
貸倒引当金	△ 208	△ 205
<b>資産合計</b>	<b>4,586</b>	<b>4,052</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	2,257	2,299
固定負債	901	856
<b>負債合計</b>	<b>3,159</b>	<b>3,155</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本 <b>4</b>	926	522
その他の包括利益累計額 <b>5</b>	498	374
新株予約権	1	—
<b>純資産合計</b>	<b>1,426</b>	<b>896</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>4,586</b>	<b>4,052</b>

**Point1** 現金及び預金

長期借入金等の資金調達を適宜行っておりますが、中国子会社である無錫三和塑料製品有限公司における不正問題に起因する資金需要等により、前連結会計年度末に比べ2億77百万円減少しております。

**Point2** たな卸資産

主に試験機事業における大型試験装置の売上計上の翌期へのずれ込み等により前連結会計年度末に比べ1億49百万円増加しております。

**Point3** 有形固定資産

主に中国子会社である無錫三和塑料製品有限公司の有形固定資産の減損損失の計上により、前連結会計年度末に比べ1億91百万円減少しております。

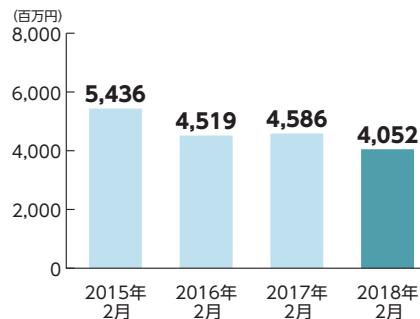
**Point4** 株主資本

当期純損失の計上等により前連結会計年度末に比べ4億4百万円減少しております。

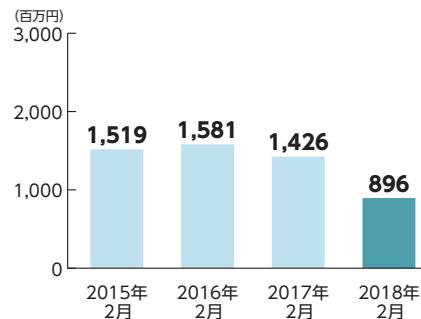
**Point5** その他の包括利益累計額

人民元に係る為替換算調整勘定の減少等により前連結会計年度末に比べ1億24百万円減少しております。

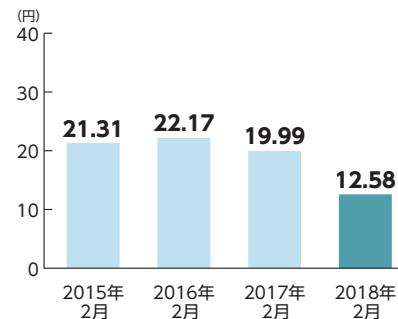
総資産



純資産



1株当たり純資産



※中国子会社における元役職員の不正行為の発覚により、2017年8月15日付で、2017年2月期第2四半期以降の過年度決算を訂正しております。下記の前連結会計年度末および前連結会計年度の数値は、当該決算訂正後の数値であります。

## 連結損益計算書

科目	前連結会計年度	当連結会計年度
	2016年3月1日～2017年2月28日	2017年3月1日～2018年2月28日
売上高 <b>6</b>	4,988	4,527
売上原価	3,614	3,451
売上総利益 <b>7</b>	1,374	1,075
販売費及び一般管理費	1,361	1,382
営業利益	13	△ 306
営業外収益	23	10
営業外費用	32	46
経常利益	5	△ 343
特別利益 <b>8</b>	3	299
特別損失 <b>9</b>	—	330
税金等調整前当期純利益	8	△ 374
法人税等	58	29
当期純利益	△ 49	△ 404
親会社株主に帰属する当期純利益	△ 49	△ 404

※△は損失を示しております。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

科目	前連結会計年度	当連結会計年度
	2016年3月1日～2017年2月28日	2017年3月1日～2018年2月28日
営業活動によるキャッシュ・フロー	387	△ 354
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 75	105
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 140	12
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 7	3
現金及び現金同等物の増加額又は減少額 (△)	163	△ 232
現金及び現金同等物の期首残高	508	672
現金及び現金同等物の期末残高	672	439

### Point6 売上高

売上高は前連結会計年度に比べ4億61百万円減少しております。試験機事業は2億57百万円、エンジニアリング事業は13百万円、海外事業は1億91百万円とすべてのセグメントで減少となっております。なお、売上高減少の主要因につきましては、試験機事業において大型試験装置の売上計上が翌期にずれ込んだことや海外事業の中国子会社の業績回復が計画よりも遅れたこと等によりです。

### Point7 売上総利益

売上総利益は、主に試験機事業および海外事業の売上高の減少により、前連結会計年度に比べ2億98百万円減少いたしました。また、売上総利益率は3.8ポイント悪化し、23.8%となっております。

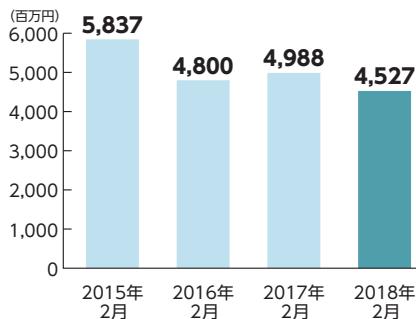
### Point8 特別利益

当連結会計年度は、中国子会社の瀋陽特可思木芸製品有限公司の出資持分譲渡に伴う関係会社株式売却益2億92百万円を特別利益として計上しております。

### Point9 特別損失

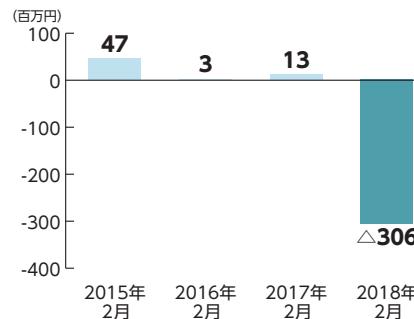
当連結会計年度は、無錫三和塑料製品有限公司およびその子会社の家電製品事業に係る大幅な営業赤字の計上に伴う有形固定資産およびのれんの減損損失1億95百万円、過年度決算訂正関連費用1億8百万円をきめ、合計3億30百万円の特別損失を計上いたしました。

## 売上高

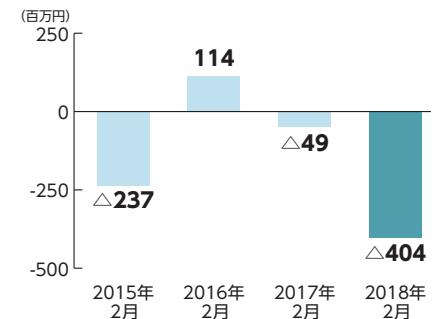


※△は損失を示しております。

## 営業利益



## 親会社株主に帰属する当期純利益



## トピックス

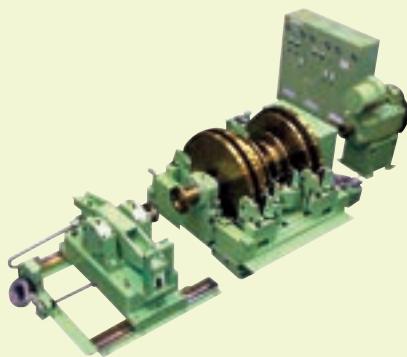
### 試験機事業における大型受注について

(株)東京衡機試験機は、2017年度、受注について当初の予算を大幅に上回ることができました。これは、大型案件の受注に恵まれたことに拠ります。その主なものとしては、ブレーキダイナモ試験機2台、全自動シャルピー衝撃試験機2台、80MN大型引張試験機、10MN横型引張試験機などが挙げられます。

このうち、ブレーキダイナモ試験機は、電車車両のブレーキ性能評価を目的とした装置です。車両相当の慣性質量をモーターで駆動し、ブレーキを制動させ、トルク・温度・速度等の計測を行うことで性能特性を評価します。この装置は、鉄道車両用ブレーキ指針の根拠になるデータを取得することから、安全性の面から社会的に大変重要な装置といえます。

80MN大型引張試験機や10MN横型引張試験機は、建物や大型構造物などに用いられる部材の実質強度を測定するために使用されます。試験機により強度の確認がなされた材料が用いられることにより、私たちの暮らしの安心と安全が維持されています。

私たちは、これからもお客様の様々なニーズに応え、信頼される試験機をご提供することで安心・安全で豊かな社会の実現に貢献してまいります。



ブレーキダイナモ試験機



全自動シャルピー衝撃試験機

## 中国子会社の本社工場の収用および移転

2018年2月に当社の中国子会社である無錫三和塑料製品有限公司の本社工場が無錫市政府により収用されることが確定し、同社の本社工場を下記のとおり移転することを決定いたしました。

現在、早期の移転完了を目指して移転作業および各種手続きを進めております。

### (1) 収用対象

本社工場（江蘇省無錫市北塘区黄巷街道全豊路1号）建築面積 10,647.85㎡

※ 土地につきましては、国有土地に該当し、土地使用権の補償となります。

### (2) 収用補償金額

①不動産補償額・休業損失・移転費用等 25百万人民元

②早期移転奨励金 2百万人民元

※②につきましては、2018年6月15日までに移転が完了した場合は全額支給されますが、7月15日まで移転完了が伸びた場合は半額支給となり、7月15日までに移転が完了しない場合は支給されません。

### (3) 移転先

江蘇省無錫市錫山経済開発区春筍路110号



移転先工場内



移転先事務棟



移転先倉庫



移転先倉庫内



移転先事務棟内

特集

## ボルト・ナット脱落防止スプリング 「ロックワン」のご紹介



当社グループ子会社の㈱東京衡機エンジニアリングが開発・販売しているボルト・ナット脱落防止スプリング「ロックワン」が、一般社団法人日本建築センターより、建築基準法その他の技術基準等に適合しているとの評価を受けました。これによりロックワンは同機関より脱落防止締結具として評価された初の製品となりました。

日本建築センターは、国土交通省から建築物の工法、部材、設備等の性能評価機関として指定を受け、建築基準法に基づく性能評価業務を実施しています。同機関が実施した評価の結果は、建築関連企業や官公庁等において技術資料として活用されています。

この度、ロックワンは、脱落防止締結具として同機関より評価を受けた唯一のものとなりましたので、今後の建築業界向けの販路拡大に大いに寄与するものと期待しております。なお、適用範囲は「地上5階建て以下、軒の高さ20m以下」の建築物となります。



ロックワンは、ばねの緊縮力を利用したスプリング構造のボルト・ナット脱落防止締結具です。標準の12角ソケットにナットとロックワンをセットし、通常のボルト締め付けの要領で取り付けられるなど作業性が良く、また、脱落防止効果が極めて高いことが特長です。NAS 3350 (National Aerospace Standard 米国宇宙航空規格) に準拠した衝撃型振動試験において脱落防止効果は証明されており、また、第三者機関が実施した他社製品との比較試験においても高い評価を得ています。



## 株式情報 (2018年2月28日現在)

### ● 株式の概況

発行可能株式総数	260,000,000株
発行済株式の総数*	71,337,916株
株主数	3,475名

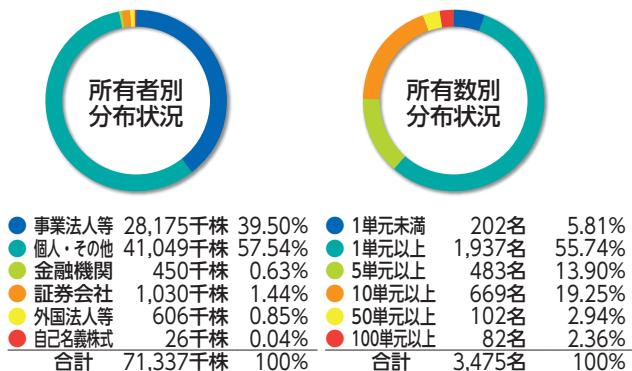
\*上記の発行済株式の総数には、自己株式26,847株を含みます。

### ● 大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
Dream Bridge株式会社	21,401千株	30.01%
株式会社アジアゲートホールディングス	5,978千株	8.38%
何 積橋	1,885千株	2.64%
佐藤 充弘	1,793千株	2.51%
岡崎 由雄	1,050千株	1.47%
石井 照義	664千株	0.93%
宝天大同	470千株	0.65%
池上 道弘	466千株	0.65%
横尾 年治	400千株	0.56%
中束 文和	372千株	0.52%

\*持株比率の算定においては、発行済株式より自己株式(26,847株)を控除しております。

### ● 株式の分布状況



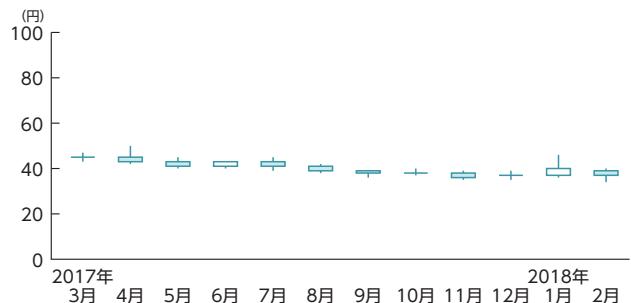
## 会社概要 (2018年2月28日現在)

商号	株式会社東京衡機
本店所在地	東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地
創立	1923年(大正12年)3月20日
資本金	27億1,355万2,013円
従業員数	13名(連結371名)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京衡機グループの経営戦略の立案・遂行</li> <li>・グループ子会社の統括管理およびサポート</li> <li>【グループの事業内容】</li> <li>・試験・計測機器および関連機器の製造・販売ならびに修理・メンテナンス、校正、受託試験その他の付帯サービス</li> <li>・ゆるみ止めナット、ゆるみ止めスプリング、特殊ばね、ボルトその他の締結部材の製造・販売、各種サービス</li> <li>・一般消費者向け商品の販売、各種サービス</li> </ul>

## 役員等 (2018年5月31日現在)

代表取締役社長	竹中 洋
取締役(社外取締役)	石渡 隆生
取締役(社外取締役)	小野沢 隆
取締役(社外取締役)	飯屋 浩一
取締役(社外取締役、弁護士)	田中 宏明
常勤監査役	鶴見 孝
監査役(社外監査役)	藤田 泰三
監査役(社外監査役、弁護士)	水川 聡
監査役(社外監査役)	玉虫 俊夫
監査役(社外監査役、公認会計士・税理士)	瀬山 剛
会計監査人	RSM 清和監査法人

### ● 株価の推移



## 株主メモ

事業年度	3月1日から翌年2月末日まで
期末配当金受領株主 確定日	2月末日
定時株主総会	毎年5月開催
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同上連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 ☎ 0120-782-031 (フリーダイヤル)
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同上連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1番1号 ☎ 0120-232-711 (フリーダイヤル) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場金融商品取引所	東京証券取引所 市場第二部
公告の方法	電子公告 (掲載 URL <a href="http://www.tksnet.co.jp">http://www.tksnet.co.jp</a> ) (ただし、電子公告によることができない事故その他の止むを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式買取・買増請求その他の各種お手続きにつきましては、原則として、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関するお手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行株式会社）にお問い合わせください。同行全国各支店でもお取次ぎいたします。

東京衡機ホームページ  
<http://www.tksnet.co.jp/>

IR情報はこちらからご覧いただけます。



### ロゴマークについて

“技術力”“獨創性”“人”“伝統”全てをリンクさせ、一丸となって新しい時代へ向かう東京衡機の姿を表現するため、「青」「赤」「緑」「紫」を“光のイメージ”に展開しています。

#### 青：東京衡機の技術力

真っ青な海や空を眺めていると不思議と心が安らぎ、ポジティブな気持ちになります。そのことから「青」は冷静、自立、希望を象徴し、また知性、誠実のイメージをもつ色といわれています。次代のシーズを冷静に判断し、お客様のご要望に的確に応えるため、あらゆる知性を集約した、東京衡機の“技術力”を「青」で表現しています。

#### 赤：東京衡機の獨創性

万物に恵みを与えてくれる太陽の色「赤」は、外へと向かうパワーを感じさせます。

情熱、エネルギー、ダイナミック、活動的なイメージがあり、幸運を招く色としても知られています。新しい次代へ挑むエネルギーとなる、東京衡機の“獨創性”を「赤」で表現しています。

#### 緑：東京衡機の人

自然の美しさや木々の芽吹きを連想させる「緑」は、すがすがしさ、新鮮さ、新しい可能性、生命力を象徴する色です。いつまでも新鮮で、新しい可能性に満ち、時代を乗り越える生命力を備えた東京衡機の財産“人”を「緑」で表現しています。

#### 紫：東京衡機の伝統

染料の入手が困難なこと、染め出す技術が高度なことより、古来から「紫」は高貴な色として崇められ、また伝統、古典のイメージをもつ色です。1923年創業という長い歴史を誇る、東京衡機の“伝統”を「紫」で表現しています。

株式会社 **東京衡機**  
TOKYO KOKI CO. LTD.



〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地  
TEL 03-5207-6760 FAX 03-5298-1802